

経済学部経済学科通信教育課程

【2025年度 大学評価総評】

経済学部経済学科通信教育課程の自己点検・評価シートにつき、各点検・評価項目における現状は、根拠資料をもとに概ね適正に確認、把握されている。学生アンケートの要望を取り入れ、新規のメディアスクーリング科目として「産業組織論 A/B」の設置を決め、メディアスクーリング科目の新規開講が一步前進したことは高く評価できる。また、過去のガイダンスの録画を利用するなど、学生の履修支援を充実化していることも評価に値する。さらに、2025年度、新たに通信教育課程の業務に携わることのできる専任教員を2名採用しており、また、「社会経済学」分野を専門とする専任教員を新たに配置することができたことは、質保証という点で高く評価できる。

2025年度目標は、2024年度の中期目標・年度目標達成状況報告書の内容と整合性があると判断される。2025年度の重点目標に基づき、授業改善アンケートなどから学生のニーズを幅広く取り入れ、講義内容のさらなる充実化を図っていくことを期待したい。

【2025年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2024年度大学評価結果総評】(参考)</p> <p>経済学科通信教育課程における自己点検・評価シートに関し、各点検・評価項目における現状分析は、根拠資料に基づき適正に確認されている。</p> <p>「社会人の学び直し」への多様なニーズが高まりつつある現代社会において、通信教育の存在意義が低下することはないであろう。日本で最も古い歴史と伝統を誇る当通信教育課程が、レポート添削、スクーリング(面接授業)という典型的な教育手法から、受講生が望むメディアスクーリング(オンラインスクーリング)を中心とした教育体制へと一歩ずつ前進していく取り組みは高く評価できる。また、全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に複数回参加することは、本通信教育課程の認知度を高める積極的な活動として評価できる。</p> <p>通信教育課程を有する学部では、常に全日制通学過程との共存を図りながら、すべての基準を検討することになるので二律背反の苦勞が絶えないものと想定される。そうした中で、2023年度中期目標・年度目標達成報告書における点検項目すべてにおいて、A以上の評価が下されたことは自己評価といえども、関係する教職員の努力の賜といえよう。メディア(オンライン)スクーリングへの着実な移行が、本通信教育課程に一層の活性化と充実をもたらすものになると期待したい。</p>
<p>【2024年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</p> <p>経済学科通信教育課程では、これまで、学生に対して通学課程と同等の質の高い教育を提供することにより、社会の幅広い学びのニーズに答えてきた。具体的には、専任教員を科目担当者として配置するなどして、講義の質を確保するように尽力している。特に、今年度については、新たに通信教育課程の業務に携わることのできる専任教員を2名採用することに成功した。また、「社会経済学」についても、この分野を専門とする専任教員を新たに配置することができた。さらに、自己点検、シラバスの第三者確認、そして授業改善アンケートの実施などによって、つねにカリキュラム配置の適切さについても適宜検討を行なっている。</p>

II. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

<p>学部(学科)における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p> <p>＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A(概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
--	---	-----------------------------

<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>
<p>《内容》</p>

(2) 通信教育部の新たな改革に向けての取り組み

<p>『通信教育部改革の検証について（報告）』を受けて」（2021年度第8回通信教育学務委員会資料No.7）において示された新たな改革に向けた取り組みのうち、以下の点について、改善・向上を図っていますか。</p> <p>《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》</p>		
<p>初年次教育と若年層入学者への対応について</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A（概ね従来通りである又は特に問題ない）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p>		
<p>遠隔会議システムを利用したスクーリングの常設や教育のオンライン化について</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A（概ね従来通りである又は特に問題ない）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p>		

III. 2024年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。	
年度目標	メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの拡充）	
達成指標	メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの拡充）	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	新規に、メディアスクーリング科目として、「産業組織論 A/B」の設置を決めた。
	改善策	今後も継続して、メディアスクーリング科目を増やすことが学生のニーズを満たすうえで必要と考えられる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生へのアンケート結果から、通信教育課程について、教授会メンバーの知見はより一層深まっている。
改善のための提言	通学課程のオンライン授業が定着する中、通信教育課程に対する、教員の参加向上に努められたい。	
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。	
年度目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。	
達成指標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改	

	善。	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2024 年度における初年次教育の検討と情報科学系の通教共通科目の導入に際して、通教課程のカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーの確認、通学課程のカリキュラムマップとの対応関係を、学務委員の方で、再度確認、検討した。その結果の一部を教学・人事政策委員会および教授会で共有を図った。アセスメント・ポリシーは作成済み。
	改善策	現在の通教課程のカリキュラムに、大部分で、現在のカリキュラムマップおよびツリーは、適合していると思われる。引き続き、カリキュラムの見直しを継続する必要はあり、それに併せて、カリキュラムマップおよびツリーの更新が継続して行われる必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの点検により、これらに対する知見が深まった。
	改善のための提言	得られた知見を、今後のカリキュラム改革に活かされたい。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。	
年度目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。	
達成指標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学生アンケートで要望の多かったメディアスクーリングの充実に向けて、新規開講科目を継続的に増やしている。
	改善策	今後も継続して、メディアスクーリング科目を増やすことが学生のニーズを満たすうえで必要と考えられる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生アンケートの要望から、メディアスクーリング科目の新規開講が、さらに一步前進した。
	改善のための提言	今後もメディアスクーリング科目を、充実するとよい。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。	
年度目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。	
達成指標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学生アンケートで要望の多かったメディアスクーリングの充実に向けて、新規開講科目を継続的に増やしている。
	改善策	今後も継続して、メディアスクーリング科目を増やすことが学生のニーズを満たすうえで必要と考えられる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	過去のガイダンスの録画を利用するなど、学生の履修支援は充実している。
改善のた	学生のカリキュラムツリー・カリキュラムマップ活用の促進と、カリキュラムの改善	

	めの提言	を並行して進めるとよい。
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	継続的な学習推進。
	年度目標	継続的な学習推進。
	達成指標	継続的な学習推進。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	春・秋の新入生学習ガイダンス（教員講演）をオンラインで行った。春、秋ともに、時間の制約があり短い時間であったが、カリキュラムマップの読み方の紹介を通じて、個別科目のたまかな性格付けを確認できることを伝えた。カリキュラムツリーを用いた履修計画の例示までは行えなかった。
	改善策	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援は、新入生学習ガイダンス（教員講演）の拡充で行った。学習ガイダンスの内容のスライドショーのサンプルに、文献引用の仕方、レポート作成の仕方などについて指導内容を盛り込んだ。カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーを用いた履修計画の例示も含めるべきと思われる。教員による履修指導に、カリキュラムマップおよびツリーを活用するよう周知がさらに必要と思われる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	実施困難となったステップ式学習ガイダンスに代わって、過去のガイダンス録画等を利用して、継続的な学習推進を実施した。
	改善のための提言	継続的な学習推進のため、臨機応変な支援が必要と思われる。
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップ、アセスメントポリシーを通じた学修成果の測定への取り組み。
	年度目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップ・アセスメントポリシーを通じた学修成果の測定への取り組み。
	達成指標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップ・アセスメントポリシーを通じた学修成果の測定への取り組み。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	春・秋の新入生学習ガイダンス（教員講演）をオンラインで行った。春、秋ともに、時間の制約があり短い時間であったが、カリキュラムマップの読み方の紹介を通じて、個別科目のたまかな性格付けを確認できることを伝えた。カリキュラムツリーを用いた履修計画の例示までは行えなかった。
	改善策	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援は、新入生学習ガイダンス（教員講演）の拡充で行った。学習ガイダンスの内容のスライドショーのサンプルに、文献引用の仕方、レポート作成の仕方などについて指導内容を盛り込んだ。カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーを用いた履修計画の例示も含めるべきと思われる。教員による履修指導に、カリキュラムマップおよびツリーを活用するよう周知がさらに必要と思われる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	カリキュラムツリー、カリキュラムマップを通じて、学修成果の測定に務めた。
	改善のための提言	学生のカリキュラムツリー、カリキュラムマップ活用の促進と、学習成果の測定に取り組むとよい。
	評価基準	学生の受け入れ

中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。	
年度目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。	
達成指標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通読判定での書類選考では、課題の書評、学生の経歴、成績を総合的に判断している。身体・精神障がい者も多く入学するため、該当者に対する事前相談・面談の流れも構築している。
	改善策	身体・精神障がい者に対する事前相談・面談制度については具体事例を積み重ねることで改善を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	障がい者への事前相談を含め、「社会に開かれた大学」を実践し、意欲ある様々な学生を受け入れるべく取り組んだ。
	改善のための提言	さらに多様な学生を広く受け入れるよう努められたい。
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。	
年度目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。	
達成指標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通教授業編成委員会を活用しながら、通教主任1名と学務委員1名が連携することで通教学務を円滑に回すことができたと思われる。
	改善策	通教主任と学務委員の2名の連携を強め、効率的かつきめ細かな対応を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	通信教育課程主任を1名、学務委員1名、計2名の体制を維持し、学務体制を全うした。
	改善のための提言	通教主任、学務委員を中心に、できる限り多くの教員の参加向上に努められたい。
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。	
年度目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。	
達成指標	通信教育課程専任の教員が不在である問題について検討	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通信学習科目については専任教員が教科担当者となり、組織として通信教育課程の質を維持している。
	改善策	通学課程と通信教育課程のカリキュラムを照らし合わせて教員組織の質を担保できるように努める。
	質保証委員会による点検・評価	
所見	専任教員が通信教育課程の教科担当者となる体制を維持し、教育の質が保たれている。	

	改善のための提言	専任教員の参加向上に継続的に努力してほしい。
	評価基準	学生支援
	中期目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
	年度目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
	達成指標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	身体・精神障がい者や疾病を持った学生が多く在籍しているため、スクーリング時には学生相談・支援室（カウンセラー・精神科医含む）と通教主任、通教部長、教授会執行部と連携し、問題・相談に対応する体制が整えられている。
	改善策	障がい者に対する事前相談制度を維持し、問題点があれば適宜改善していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長と連携し、問題・相談に対応する仕組みを維持している。
	改善のための提言	より多様な学生に対しても臨機応変な支援を続けてほしい。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
	年度目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
	達成指標	メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの拡充）
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に複数回参加した。
	改善策	合同入学説明会でのフィードバックをもとに社会人学生のニーズに対して通信教育課程としてどのようなサービスを提供できるのか検討を進める。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に複数回参加し、そこで得た知見を教育に反映している点は評価に値する。
	改善のための提言	社会貢献・社会連携としての通信教育をより一層充実させてほしい。
<p>【重点目標】 生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの拡充）</p>		
<p>【年度目標達成状況総括】 学生アンケートや合同入学説明会などの場で学生からの要望が多かったメディアスクーリングの充実を新規開講科目を継続的に増やすことにより進めており、増加する生涯学習のニーズに対応可能な体制の整備が、コロナ禍の経験で得られた知見も活用して着実に進展している。コロナ禍を経て一層強まった生涯学習のニーズに対応する体制のさらなる整備に引き続き注力していきたい。</p>		

IV. 2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。
年度目標	学生による授業改善アンケートで学生の満足度を把握
達成指標	教授会へのフィードバックおよび改善
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。
年度目標	カリキュラムが教育効果の点で適切に配置されているかを適宜検討する
達成指標	成績データによる検証
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。
年度目標	学生からの要望の多いメディア・スクーリング科目についての開講
達成指標	授業改善アンケートの結果を教授会で共有
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。
年度目標	ガイダンスや講義内アナウンスを通じて、カリキュラムについての学生の理解を高める
達成指標	学生による履修登録状況の確認
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	継続的な学習推進。
年度目標	講義内容のさらなる充実
達成指標	授業改善アンケートによる満足度の確認
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
年度目標	授業改善アンケートの分析
達成指標	教授会での報告および検討
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
年度目標	年4回実施される現行の入学選考の継続
達成指標	受験者数および入学者数データによる検証
評価基準	教員・教員組織
中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
年度目標	引き続き、主任1名と学務委員1名を配置する
達成指標	教授会による承認をえる
評価基準	教員・教員組織
中期目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。
年度目標	専任教員による通信教育課程教への積極的参加
達成指標	教授会による承認
評価基準	学生支援
中期目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。

年度目標	多様な科目を開講することで学生の満足度向上をはかる
達成指標	授業改善アンケートによるフィードバック
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
年度目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの妥当性についての検討
達成指標	教授会での報告および検討
<p>【重点目標】 今年度は特に講義内容のさらなる充実をめざす。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 授業改善アンケートなどから学生のニーズを幅広く取り入れられるようにする。</p>	

IV-2. 2025年度中期目標・年度目標達成状況報告書

経済学部経済学科通信教育課程

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
教育課程・学習成果 【教育課程・教育内容に関すること】	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実	学生による授業改善アンケートで学生の満足度を把握	教授会へのフィードバックおよび改善	S	授業改善アンケートを当初の予定通り実施し、年度目標を達成できたため	回収率の向上に向け、回答時期や方法の見直しを検討する	今年度に関しても授業改善アンケートが実施され、フィードバックが行われ、この年度目標に関しての達成が伺われる。	学生の評価がより精緻に反映されるようなアンケートの作成も検討される必要があると思われる。
教育課程・学習成果 【教育課程・教育内容に関すること】	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善	カリキュラムが教育効果の点で適切に配置されているかを適宜検討する	成績データによる検証	S	カリキュラムについて検討をおこない、年度目標を達成できた	経年比較を可能にするため、データの蓄積方法と分析の定型化を進める	成績データや授業改善アンケートの検討を通じて、主任を中心にカリキュラム改善への検討が行われたと聞く。そのため、この項目に対しても、年度目標への達成が行われたとみられる。	単年度の成績データによるカリキュラム検証の過程は確立されているのかもしれない。時系列にこれら成績データを蓄積して、カリキュラムの検討に利用できる手法を模索する必要がある。
教育課程・学習成果 【教育方法に関すること】	検証に基づく更なるスクーリングの充実	学生からの要望の多いメディア・スクーリング科目についての開講	授業改善アンケートの結果を教授会で共有	S	新たにメディア・スクーリング科目を開講し、年度目標を達成した	対面スクーリングとの役割分担を整理し、科目ごとに最適な実施形態を検討する	メディアスクーリングは、今年度に限らず、ここ7、8年の間に、年々メディアスクーリング科目の新規開講が行われ、これら科目の拡充が進んでいる。今年度も、メディアスクーリング科目の新規開講が行われた。年度目標の達成がみられる。	メディアスクーリング科目が徐々に増えている。既存の対面のスクーリング科目との間での内容の重複の恐れも現れてきた。内容面でのメディアスクーリング科目と対面によるスクーリング科目の役割分担を再検討する必要がある。
教育課程・学習成果 【教育方法に関すること】	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援	ガイダンスや講義内アナウンスを通じて、カリキュラムについての学生の理解を高める	学生による履修登録状況の確認	S	入学時ガイダンスおよび各期の講義内で履修の流れや推奨科目を案内した	学年・年次ごとの履修モデルを作成し、学生への周知をさらに充実させる	入学時ガイダンスや講義内での履修科目のフローの例などを紹介した。	カリキュラムツリーによる1年から4年までの科目履修フローなどの例示を行っているが、学生への周知が不十分なため、あまり利用されていないように思われる。多様な学生に対して、さらに科目履修フローも多様化、具体化し、学生に利用できるよう工夫される必要がある。
教育課程・学習成果 【学習成果に関すること】	継続的な学習推進	講義内容のさらなる充実	授業改善アンケートによる満足度の確認	S	各担当教員がシラバスの見直しと教材の更新を行い、講義の質的向上に取り組んだ	学生が自身の学修到達度を把握できるよう、成績通知の際に補足的なフィードバックの導入を検討する	授業改善アンケートの結果に基づき、各担当教員による担当講義でのシラバスの改善や講義内容の改善などを図った。今年度のこの目標は達成されていると思われる。	授業改善アンケートの結果に従って、学修到達度を測れるような分析手法を確立する必要がある。
教育課程・学習成果 【学習成果に関すること】	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み	授業改善アンケートの分析	教授会での報告および検討	S	カリキュラム上の課題について検討し、次年度へ反映させた	定量データに加え、卒業生の進路情報等も活用した多面的な学修成果の把握を進める	カリキュラム上の課題の捕捉と検討を行い、次年度のカリキュラムに反映させることに注力した。	カリキュラムマップおよびツリーによる学習成果を測る手法を引き続き確立する必要がある。
学生の受け入れ	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。	年4回実施される現行の入学選考の継続	受験者数および入学者数データによる検証	S	年4回の入学選考を予定通り実施し、志願者数・入学者数ともに安定的な水準を維持した	ウェブサイトや説明会等を通じた情報発信を強化し、潜在的な志願者層への周知を広げる	年4回の入学選考を実施し、志願者数・入学者数ともに例年並みの水準を維持できたため、学生の受け入れに関する年度目標は達成されたとみられる。	志願者数、入学者数のデータによる志願・入学状況の把握により務める必要がある。さらに、潜在的な志願者を掘り起こすために、ウェブサイトや説明会で本過程のプロモーションを行う必要もある。
教員・教員組織	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する	引き続き、主任1名と学務委員1名を配置する	教授会による承認をえる	S	主任1名・学務委員1名の体制のもと、教授会との連絡調整や学生対応を円滑に行った	業務の引継ぎ体制を整備し、担当者交代時にも運営の質が維持されるようにする	主任1名、学務委員1名の体制で、今年度の本過程の運営を行った。学生対応、教授会への連絡、教授会との調整などの業務を十分行っていたと思われ、本項目の年度目標は達成できたと評価する。	主任に本過程の運営の業務がかなり集中するよう見受けられる。特に今後の本過程の検討課題に関する意見聴取、検討の業務に関しては、学部内で分担・分散できる体制を検討することも必要かもしれない。

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
教員・教員組織	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持	専任教員による通信教育課程教への積極的参加	教授会による承認	S	専任教員が積極的にスクーリングやレポート添削を担当し、通学課程と同等の教育水準を確保した	通信教育に適した教授法に関するFD研修の機会を設け、教員間で知見を共有する	専任教員によるスクーリングやレポート添削などの業務に関して、通学過程と同様な水準で行われたとみられる。この項目に関しても、十分に年度目標を達成できた。	カリキュラムおよび教授法の改善のため、専任教員の通信学習、スクーリングおよびメディアスクーリング科目担当者間で自講義内で得た知見を共有する機会を設ける必要があると思われる。
学生支援	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する	多様な科目を開講することで学生の満足度向上をはかる	授業改善アンケートによるフィードバック	S	通教事務課に相談窓口を設置し、学修上の悩みや事務手続きに関する問い合わせに対応した	スクーリング期間外でもオンラインで相談できる体制を整え、通年での支援を充実させる	通教事務課の窓口を通じて、学生の履修、学修および学生生活上の問い合わせに対応できたと思われる。この項目に関して目標は達成できたと見られる。	学生支援の本過程の対応として、履修、学修および学生生活上の問い合わせに対するチャンネルを拡充し（たとえばオンラインによる相談）、問い合わせに対する対応をより丹念なものとする努力をする必要がある。
社会貢献・社会連携	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステナブルに維持して行く	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの妥当性についての検討	教授会での報告および検討	S	社会人学生の多様な関心に対応するため、機械学習についての科目を2027年度より開講する予定である	社会情勢や学生ニーズの変化を定期的に把握し、必要に応じた科目の新設・改廃を検討する	社会人の学び直しのニーズに対応するため、機械学習についての科目を2027年度より設置することを決めた。社会人の学び直しを含めた学生の多様なニーズに対応する端の具体的な対応を行ったことは評価に値する。	学生ニーズをより反映したカリキュラムを目指すため、科目新設、改廃を継続的に行う必要がある。先にも述べたように、ニーズの把握のため、アンケートの手法とそのデータの活用方法について検討が必要である。

自己評価について

- S 目標を十分達成し、質の向上が顕著である。
- A 目標をほぼ達成し、質の向上が見られる。
- B 目標の達成が不十分である。
- C 目標が達成できていない。

【重点目標】	【目標を達成するための施策等】
今年度は特に講義内容のさらなる充実をめざす。	授業改善アンケートなどから学生のニーズを幅広く取り入れられるようにする。
【年度目標達成状況総括】	
<p>本年度は、授業改善アンケートの活用によるカリキュラム改善、メディア・スクーリングの新規開講、安定的な入学選考の実施、教員組織の適切な運営、スクーリング時の学生相談体制の確保など、各項目において年度目標を達成することができた。次年度は、データの蓄積と分析の定型化、学生支援のオンライン化など、継続的な改善に取り組んでいく。</p>	